絵画を読み解く

関連するSDGsの国際目標



人間文化学部　地域文化学科　　教授　　亀井　若菜
研究分野　：日本美術史

概要：絵画を中心に日本美術史の研究をしています。中でも、中世の絵巻を主な研究対象としてきました。特に関心があるのは「女性」を描く絵や「土地」を描く絵です。近江の景観を描く「桑実寺縁起絵巻」や「唐崎の松」についても考察してきました。

■物語絵画の中の女性像

絵の中に女性は多く描かれます。女性像は、物語の主人公として、あるいは歴史上名のある人物として、またそれらを支える脇役として描かれたりします。しかし男性が主導する社会において劣位に位置づけられる女性の姿は、男性同士の力関係の中で、自分の側に置きたいもの、敵対するもの、劣位に置きたいものなどのメタファー（隠喩）としても表されます。そのため、女性像の表現や役割を丁寧に分析することによって、その背後にある社会の状況や価値観などを推測することもできます。絵を、ただ美しいものとして見るのではなく、人と人の関係性やその社会の価値観を構築するものとして捉え、研究しています。

これまでに研究の対象とした作品には、「信貴山縁起絵巻」「粉河寺縁起絵巻」「掃墨物語絵巻」などがあります。

これらの絵巻に関する研究内容は、2015年に『語りだす絵巻』という本として出版しました（ブリュッケ刊、同書は平成27年度芸術選奨文部科学大臣賞を受賞）。



著書『語りだす絵巻』
（ブリュッケ、2015年）

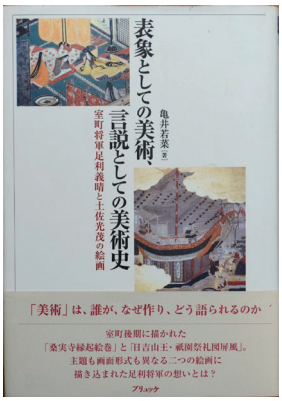
■仏教主題の絵と女性

仏教において女性はどのようなものと考えられてきたのか、絵はそれをどのように描いてきたのか、ということも研究しています。具体的には、往生や法華経の龍女成仏を主題とする物語絵画の中の女性の表現について分析しています。

■近江の景観を描く絵の研究

滋賀県の桑実寺に所蔵される「桑実寺縁起絵巻」は、天文元年（1532）に、近江の桑実寺に逃げてきていた将軍足利義晴の発願によって作られました。この絵巻には、桑実寺から望める安土山付近の景色がリアルに描かれています。実際に見える景色がなぜ描かれたのか。同時代の美術の中には、そのような表現をするものは他にありません。その理由と意味を、将軍義晴が置かれていた状況から考えました。

近江の景観に関する研究としては、近江の名所である唐崎が、一本松をシンボルとして描かれてきた歴史とその理由についても考察しました。



著書『表象としての美術、
言説としての美術史』
（ブリュッケ、2003年）

＜特許・共同研究等の状況＞
平成28～31年度　文部科学省　科学研究補助金　基盤研究(C)
「中世の『伊勢物語』イメージ形成に関わる「伊勢物語絵」と文芸の総合的研究」　　研究代表者